

**薬学部**

I	教育の水準	.....	教育 9-2
II	質の向上度	.....	教育 9-4

## I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 薬学の専門教育は医学部や和漢医薬学総合研究所の教員と連携し、「医療学入門」、「和漢医薬学入門」等のそれぞれの学部等の専任教員が共同で行う授業や、「生理学」、「免疫学」、「病原微生物学」等の他学部教員が単独で担当する授業を開講している。
- 専門教育の充実を図るため、寄附講座（製剤設計学講座）の客員教授1名、客員助教1名や保険薬局学の特命助教2名を配置している。
- 教養教育担当教員及び和漢医薬学総合研究所の教員と合同で、ファカルティ・ディベロップメント（FD）の研修会を毎年開催し、教育上の問題点の抽出と改善法の討論を継続的に行い、実際の教育に反映させている。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成25年度に改訂された薬学教育モデル・コアカリキュラムにより、平成27年度入学生から新しい教育課程を適用し、物理系、化学系及び生物系の基礎専門教育をスリム化するなど、医療系や実務系の科目の充実を図っている。
- 1年次に工場見学や病院、薬局訪問により講義を受ける「薬学概論」や、医療人としての意識付けを図る「医療学入門」、3年次にグループ学習での協調性を身に付ける機会と位置付けた「総合薬学演習」や、創薬研究等に関する調査研究を行う「製薬企業と創薬」、4年次に卒業後の職種及び仕事内容に関する卒業生の講演を行う「薬学経済」を開講するなど、特色のある授業を行っている。

以上の状況等及び薬学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

**分析項目Ⅱ 教育成果の状況**

**〔判定〕 期待される水準にある**

**〔判断理由〕**

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成23年度から平成27年度における、薬学科の薬剤師国家試験の合格率（新卒者）は約87.4%となっている。
- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）における学生の学術誌への論文発表数は、薬学科は平均14件、創薬科学科は平均25件で、学会等での発表数は薬学科は平均62件、創薬科学科は平均122件となっている。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成23年度から平成27年度の薬学科卒業生の就職状況は、薬剤師として病院や薬局に就職する者は約70.3%、製薬会社に就職する者は約10.2%となっている。
- 第2期中期目標期間の創薬科学科卒業生の大学院進学率は約88.2%で、そのうち学内の博士前期課程への進学率は約95.1%となっている。

以上の状況等及び薬学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

## Ⅱ 質の向上度

### 1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 6年制薬学教育「新モデル・コアカリキュラム」に対応するため、薬学科生の教育課程を見直し、平成27年度から専門基礎系をスリム化し、臨床、実務系の比重を増した新教育課程へ改訂している。
- 創薬科学科では、「製薬企業と創薬」を必修化するなど、学生の創薬研究に対するモチベーションを向上させるための取組を行っている。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 薬学科卒業生の就職について、薬剤師として病院や薬局に就職する卒業生の割合は、平成23年度の56.6%から平成27年度の74.1%となっている。
- 卒業研究の成果として学術誌に発表された論文数は、平成22年度と平成27年度を比較すると、薬学科は8件から11件、創薬科学科は10件から28件となっている。

これらに加え、第1期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。